

2010年2月5日
マツダ株式会社

2009年度 第3四半期 決算説明会
主な質疑応答

Q: 通期業績見通しを上方修正した理由は？ また黒字転換に対するコメントを聞かせて欲しい。

A: 昨年10月(第2四半期決算)公表時と比べて、①台数・構成、②為替、でそれぞれ70億円改善し、③固定費削減等、も含めた合計で170億円の改善となる見通しです。台数とコスト削減の加速で計画を達成いたします。

営業利益50億円の黒字見通しは、期初見通しの500億円の赤字に比べれば大きく改善できる見通しです。当社の“Zoom-Zoom”な車造りと販売戦略が効果を上げており、この流れを維持していきたいと考えます。

Q: 中国市場の販売が好調だが、その要因と今後の戦略について教えて欲しい。

A: 拡大する中国市場に昨年11月、新型マツダ6(日本名:アテンザ)の2.0Lモデルを導入したのを機に販売は大きく伸び、12月のマツダ6の販売台数は新型、旧型合わせて13,600台となりました。これまで継続してきた現場に密着した宣伝や営業活動が実を結んだと考えています。

昨年11月以降、単一国では最大の市場となった中国では、今後もマツダ6の認知度向上により、販売台数は増加する見通しです。加えてマツダ6の5ドアハッチバックやマツダMPVの導入を計画しています。

またマツダ3は、生産を重慶工場から南京工場に移管することで販売の増加に対応いたします。マツダCX-7、マツダ3のハッチバックモデル導入も貢献を期待しています。また販売網の強化も加速しています。中国全土の店舗数も254店舗から今年末までに300店舗まで拡大する計画です。

Q: 国内で好調のアイドリングストップシステム「i-stop」搭載車の販売は、どの程度か？また、海外を含めて、今後の展開について教えて欲しい。

A: マツダ アクセラの「i-stop」搭載率については、環境志向のお客様から高い評価をいただき、我々の予想を上回り実績はほぼ5割。全体の台数も160%で推移しており好調です。マツダビアンテは半分程度の見込みに対して、実績は7割が「i-stop」搭載車となっています。国内では、「エコプロダクツ大賞」や「RJCテクノロジーオブザイヤー」を受賞するなど好評で、海外は欧州で導入済みです。今後も認知活動に注力し販売増を図ってまいります。その他市場の導入はもう少し、検討していきます。